

〔資料紹介〕

雑誌『大陸』（改造社）総目次

—— 一巻一号（一九三八年六月号）～二巻五号（一九三九年五月号）——

和田 崇編

まえがき

1. 本稿は、改造社が一九三八（昭和一三）年六月から一九四一（昭和一六）年二月にかけて全五十五冊発行した雑誌『大陸』の総目次の一部である。

2. 採録に際して、筆者個人蔵（一巻一号～一巻三号）、国立国会図書館デジタルコレクション（一巻一号～二巻五号）と天理大学附属天理図書館所蔵（一巻一号～二巻五号）を参照した。

3. 本稿は、『大陸』全号の総目次を作成するプロジェクトの二環であり、筆者が第一巻第一号（一九三八年六月号）から第二巻第五号（一九三九年五月号）の十二冊を担当し、竹松良明（大阪学院大学短期大学部）が二巻六号（一九三九年六月号）から三巻九号（一九四〇年九月号）までの十六冊、秦剛（北京外国語大学）が三巻一〇号（一九四〇年一〇月号）から四巻一

二号（一九四一年一二月号）までの十五冊を担当している。筆者の担当以外の細目について、竹松担当箇所は『大阪学院大学通信』四八巻四号（二〇一七年七月）から四八巻八号（二〇一七年十一月）にかけて連載されている。なお、本総目次は二〇一八年秋に『戦前期中国関係雑誌細目集覧』（仮題）として、他八誌の総目次と合わせて刊行予定である。

凡例

1. 本総目次は原則として目次からではなく本文から採った。副題も採ることを原則とした。
2. 仮名遣いは原文のままとし、旧漢字・異体字は、人名等で現在でも併用される場合があるものは旧字のままとし、それ以外は新漢字・正字に改めることを原則とした。
3. 目次等で明らかとなっているジャンルについては（～）で括

り、それ以外については、*印を付して題名下の()内に説明を加えた。

- 4. 表紙や目次、カットの作者、広告欄については省略した。
- 5. 著者名の下段の数字はページ数をあらわしている。

第一巻第一号 創刊号 昭和十三年六月一日発行

噴煙図(口絵)	梅原龍三郎・筆	
大陸を拓く青少年移民隊(グラビア)	濱谷浩・撮影 田中雅夫・解説	一一三
見てきたスペインの現状(グラビア)	深尾重光・撮影 小島威彦・解説	四一七
―戦線後方で― 看護婦さんたちのお花見		八
大陸の動き(グラビア)	梅原龍三郎・筆	九一一
メーフラワー(グラビア)		
映画とレヴュー(グラビア)	杉山吉良・撮影 中山省三郎・解説	一三
美術展(グラビア)		四一五
原絵	藤田嗣治	一七
小説 自由花	山本実彦	一八一―一九
序曲「大陸に寄す」(詩)	野口弥太郎・画	二〇―三七
大陸に寄せる言葉	北原白秋	三八―三九
華北経済建設への途	荒木貞夫	四〇―四三
新設の諸官庁は何をするところか	殷同	四四―四八
問題の東京オリムピック	尾河信蔵	四九―五三
トオチカ(短歌)	尾武青魚	五四―五六
初夏の鯛釣り	斎藤茂吉	五七
舞踏会の手帖(映画解説)	佐藤垢石	五八―六一
	松永穠	六一―六五

亜細亞大陸政策と勝海舟	徳富猪一郎	六六―七二
無題(漫画)	堤寒三	七一
旅(趣味の頁)		七三
支那事変拡大鏡	山瀬音吉	七四―七九
支那事変と転向者	村上知行	八〇―八五
私の北京非籠城記	小沢碧堂	八七
童庵仲春譜(俳句)	古城江観	八八―九一
江南戦跡めぐり	小出秀世	九二―九六
六大学リーグ戦 新人グランパス	加藤悦郎	九六
もげばもがくほど……(漫画)	高浜虚子	九九
大陸にまた遊ぶべく	高田義一郎	一一九―一二二
王宮(小説)	横光利一	一〇〇―一一一
薄明の戦車部隊長と語る	北川民次・画	一一二―一一八
初夏・変態心理・犯罪	木村毅	一一九―一二二
ナチス・ドイツから何を学ぶか	高田義一郎	一一九―一二二
二荒芳徳(一二三―一二四)	奥村喜和男(一二四―一二六)	
諸井三郎(一二六―一二七)	高橋健二(一二七―一二八)	
紀平正美(一二八―一二九)	川喜多かしく(一二九―一三〇)	
小島威彦(一三〇―一三一)	山田耕伴(一三一―一三三)	
原節子(一三三)	小島精一(一三三―一三四)	
時局新語解説		一三三―一三一
世界科学トピック		一三三―一三四
当世洒落談義		一三五―一三九
無題(漫画)	石黒敬七	一三五―一三九
新政党は生れるか?	須山計一	一三九
吹き飛ばされぬやうにしつかりつかまつて居ようぜ!(漫画)	花見達二	一四〇―一四三
今月の展望	加藤悦郎	一四三
政治・経済	永田清(一四四―一四六)	
社会・文化	本田喜代治(一四六―一五〇)	

東亞問題 山下正義(一五〇—一五三)

欧米事情 木下判治(一五三—一五六)

上海の真夜中(原題「子夜」)(小説)

満州の馬(詩)

支那での残像(諸家随筆)

「談話」の詩境(諸家随筆)

「朝鮮物語」(諸家随筆)

「綴方教室」のこと(諸家随筆)

演劇(趣味の頁)

巴厘忌日記

長期戦下の国民経済

イギリス屋の転向(漫画)

空中戦闘記

無題(漫画)

街頭にカメラを向ける(写真と文)

大英帝国を震撼する印度の不安

革新政策に対する不安を一掃せよ

伝奇小説 ヤマトノフー一代記(第一回)

地球の嘘(漫画と文)

事変下 世相いろいろ雑談会

(出席者) 新居格 林美美子

サトウ・ハチロー 沢村貞子

彼地(俳句)

八十億貯蓄運動の意味

囲碁(趣味の頁)

大楠公とフォッシニ元帥

特集 世界変革の舞台に躍る巨人像

大ローマ帝国の再建へ! 巨人ムツソリ二首

茅盾 一五八—一八二

藤原定 一八四—一八五

新居格 一八六—一八八

竹内芳衛 一八八—一九一

松内則三 一九一—一九三

山本安英 一九三—一九五

一九六

藤田嗣治 一九七—一九九

堀切善兵衛 二〇〇—二〇五

岡本一平 二〇四

千田貞敏 二〇六—二〇八

堤爽三 二〇八

窪田空穂 二〇九

大宅壮一 二一〇—二二三

戸野原史郎 二一六—二二一

松井春生 二二二—二二五

木蘭良二 ブノワ・画 二二六—二二九

中村篤九 二四〇—二四一

二四二—二五四

徳川無声 大仏次郎

山口誓子 二五五

木村禮八郎 二五六—二五八

二五九

柳川平助 二六〇—二六四

相

世界を握ちる ヒトラー総統

内に肅正・外に防共 憂鬱のスターリン

フランスの悩みはどこへ? グラヂエの登場

相馬一郎 二七三—二七六

岐路に立つ ルーズベルト大統領

偉大なる平凡人 チェムバレン首相

賀川豊彦 二八〇—二八三

何時まで踊るか 運命の蒋介石

民族の明日のために 邁進する近衛首相

吉岡文六 二八四—二八七

怪奇小説 大陸 木々高太郎 高井貞二・画

ユーモアコント集 宮崎龍介 二九一—二九四

空の旅 中野実(三一〇—三一二)

軍用暗号文字 中村正常(三一—三一三)

自動車顛末記 蔵原釜足(三二—三一三)

代用品時代 白崎享一 三一四—三二〇

支那に就いての良書

音楽とレコード(趣味の頁)

騰貴払底時代(漫画と文)

宇垣一成の心境 岩松淳 三二二—三二三

新進力士論 山本実彦 三二四—三三一

動く政治 尾崎士郎 三三二—三三五

将棋(趣味の頁)

北支に進出する資本家群

『四季の歌』(随筆)

ありし日のシヤリアピン 葛西清重 三三六—三四〇

流行歌はどう変つたか 小汀利得 三四一—三四六

統制経済はどこまで進むか 中根宏 三四七—三六一

伊藤正徳 二六六—二六九

小島威彦 二六九—二七二

重徳泗水 二七七—二八〇

賀川豊彦 二八〇—二八三

吉岡文六 二八四—二八七

宮崎龍介 二九一—二九四

二九五—三〇九

白崎享一 三一四—三二〇

岩松淳 三二二—三二三

山本実彦 三二四—三三一

尾崎士郎 三三二—三三五

葛西清重 三三六—三四〇

小汀利得 三四一—三四六

尾崎秀実 三四七—三六一

中根宏 三五〇—三五四

瀬戸欣一 三五五—三五七

木村増太郎 三五八—三六一

歌劇の国際劇場	丹羽文雄	三六二—三六六
映画(趣味の頁)		三六七
戦争小説 一触即発(小説)	ルネ・ジューグレ	三六八—三八二
	高橋邦太郎・訳 藤田嗣治・画	三八三
創刊記念懸賞募集		三八四
編集室だより		

注

(1) 編集発行人ニ山本三生、発行所ニ改造社。以降、本稿の掲載範囲で上記からの変更はない。

第一巻第二号 昭和十三年七月号 一日発行

大陸の朝(口絵)	川端龍子・筆	一一三
二つの世界記録 霸業なる航研機(グラビア)		四一五
をとめ(写真詩) 濱谷博・撮影 森山啓・詩		六一七
五月二十日東京の回教礼拝堂建立祭(グラビア)		八一—
世界防共線上の回教徒(グラビア)	尾重光・撮影	一一三
海・スポーツ・女(グラビア)	杉山吉良 撮影	一一五
大陸の映画女優(グラビア)		一六
国際人物の動き(グラビア)		一七
犀絵	猪熊弦一郎	一八—二九
八達嶺(小説)	尾崎士郎	三〇—三九
経済戦に当面し国民に想う	中川一政・画	三七
フランス村(漫画)	賀屋興宣	四〇—四五
ワランの翼・航研機	岡本一平	四八—五九
蘆溝橋事件の真相を語る	大空翔太	六〇—六五
花咲く朝鮮	牟田廉也	六六—七三
東亜経営の先覚者 霞山公を憶ふ	濱本浩	
	小川平吉	

音楽とレコード(趣味の頁)		七四
印度洋旅情		七五—八〇
軍需工業家の女房役を描く	池田さぶる	八一—八六
蔣介石を追駈ける(絵入りユーモア・コント)		
空の特ダネ	黒豹介	八七—九〇
長沙で捕まえる	岡成志	九〇—九二
腹減り蔣介石	乾信一郎	九二—九三
蔣の他力本願(漫画)	堤寒三	八九
蘇連極東軍司令官 プリュツヘル元帥		
荒木彦三郎		九四—一〇三
英京で見た日本海々戦(隨筆)	平田禿木	一〇四—一〇五
運命の川・揚子江	田中香苗	一〇六—一一三
実話物語 ヨタモン記		
橋外男 横井福次郎・画		一一四—一二五
鮎釣り	瀧井孝作	一二六—一二八
石楠花(短歌)	佐々木信綱	一二九—一二九
故国に帰りにて銃後の熱誠を謝す	大川内傳七	一三〇—一三三
路傍の石(映画解説)		一三四—一三五
ブウイヤベース・マルセイエーズ(隨筆)		
中村研一		一三六—一四〇
将棋(趣味の頁)		一四一
東洋平和嬢(小説)	伊馬鶴平	一四二—一五五
大陸節(詩)	北原白秋	一五六—一五七
王克敏会见記	山本実彦	一五八—一六六
自由花(小説)	杉山平助 野口弥太郎・画	一六八—一八九
大陸開發に参加する日本化学隊	隈部一雄	一九〇—一九四
明治変革期の英雄を語る(座談会)		一九六—二二五
(出席者) 徳富蘇峰 中野正剛 白柳秀湖 佐々弘雄		
木村毅 杉山平助 藤井甚太郎 山本実彦		
徐州殲滅戦の翌日(漫画)	下川四天	二二四

長篇小説 上海の真夜中	茅盾	二一六―二三二
雜詠四首〔短歌〕	藤澤古実	二三三―三三三
田園交響曲〔映画解説〕		三三四―三五五
旅〔趣味の頁〕		三三六
財界放談	裕辰之介	三三七―三四四
ナチスはなぜ大衆の支持を得ているか	亀井貫一郎	二四五―二五二
映画〔趣味の頁〕		二五三
首夏景物〔俳句〕	飯田蛇笏	二五四―二五四
今月の展望	下川四天	二五六―二六八
早くしなよ〔漫画〕		二五九
顔を語る〔座談会〕	池辺鈞	二六九―二八三
(出席者) 池辺鈞 下川四天 堤寒三 横山隆一 近藤日出造		
チェンバレン外交か?	加藤悦郎	
独伊枢軸外交か?	黒田礼二	二八四―二九〇
ローマにて〔漫画〕	岡本一平	二八七
英の算盤づく〔漫画〕	堤寒三	二九〇
伝記小説 ヤマトノフ一代記(第二回)	木蘭良二	
ブノフ・画	青木月斗	二九一―三〇三
天薄暑〔俳句〕	吉岡文六	三〇五―三〇五
徐州殲滅戦 蔣政権の致命傷		三〇六―三二三
時局に躍る人物(陸軍の巻・海軍の巻・政界の巻)		三一四―三二六
演劇〔趣味の頁〕		三一七
廈門占拠	松島慶三	三一八―三一九
夏のホロンバイルと熱河	須山清一	三二〇―三二二
動く政治	葛西清重	三二四―三二九
鮮滿北支を覗く	小林一三	三三〇―三三七
女形行状記	下平初一	三三八―三四四
囲碁〔趣味の頁〕		三四五

帝都八大劇場楽屋訪問記	吉屋信子	三四六―三五六
世相片々	加藤悦郎	三五七
海の夜の宿	清水崑	三五八―三六一
山本社長のビール―「大陸の夕」占描	赤平清	三六二
鮎川一族(小説)	和田日出吉	三六四―三八〇
本社出版だより	木村俊徳・画	三八三
編集室だより		三八四

第一巻第三号 昭和十三年八月号 一日発行

無題〔口絵〕	橋本関雪・筆	
夏のナンガバルバット〔グラビア〕	長谷川伝次郎・撮影解説	一―四
帆走〔グラビア〕	濱谷浩・撮影	五
南進日本の若き戦士〔グラビア〕	土門拳・撮影	六―七
ドイツの労働奉仕運動〔グラビア〕	白木俊二郎・撮影	八―九
蒙疆ルポルタージュ〔グラビア〕	水島特派員・撮影解説	一〇―一三
犀絵	伊藤康	一四―一六
池田成彬(小説)	貴司山治/吉田貫三郎・画	一七
亜細亜解放への直言	桜井徳太郎	一八―三四
大陸に散りし 平服の戦士を憶う(現地報告)	梨本祐平	三五―四一
北支の資源は如何に開発するか	高木陸郎	四二―四八
沙漠(詩)	菊岡久利	五〇―五九
豪傑(小説)	獅子文六 鈴木信太郎・画	六〇―六一
南滿の平康里めぐり(現地報告)	甲斐巳八郎	六二―七五
陣中に橋本欣五郎氏と語る	大宅壯一	七六―七九
		八〇―八五

映画解説 綴方教室

鮎川一族(小説) 和田日出吉 木村俊徳・画

将棋(趣味の頁) 八六―八八

空爆下の漢口(現地報告) 八九―九七

浮世漫筆 R・D・トーマソン 一〇〇―一〇一

鮮満北支を覗く(二) 水野広徳 一〇二―一〇七

囲碁(趣味の頁) 小林一三 一〇八―一一二

大陸の旅を語る(座談会) 一一三

(出席者) 大宅壯一 村田孜郎 太田宇之助 竹内夏積 一一四―一三二

女傘(小説) 長与善郎 芹澤光治良 小宮山祿郎 水島治男 一三四―一四七

アラアラ・ニュース 丹羽文雄 田村孝之介・画 一四八―一四九

あ、故郷(映画解説) 中村篤九 一五〇―一五一

北洋漁業とソ連の壓迫 磯田武夫 一五二―一五六

音楽とレコード(趣味の頁) 一五七

財界放談 俗辰之介 一五八―一六四

岩菅山に登る(隨筆) 田部重治 一六五―一六七

大陸相談 一六八―一六九

伝記小説 ヤマトノフ一代記(第三回 完結篇) 一七〇―一八四

木蘭良二 ブブノワ・画 一八六―一九一

戦時経済国民講座 小島精一 一九二―一九三

米国人と支那人(*隨筆) 深澤正策 一九四―二〇三

夜の東京を探る 石黒敬七 清水崑・画 二〇四―二一五

成吉思汗とその統帥 大場弥平 二一六―二二〇

建設途上の満州移民村 安井誠一郎 二二一

旅(趣味の頁) 二二二

長篇小説 若き支那 川口繁・訳 嶺田弘・画 二二三―二三六

スエズ運河航行(短歌) パール・バック 五島美代子 二三五

物資飢饉の切抜策

日本人の監獄・支那の子供(現地報告) 常盤嘉一郎 二三七―二四一

演劇(趣味の頁) 芹澤光治良 二四二―二五〇

岡城の話 サトウ・ハチロー 二五一

西洋友達 古川緑波 二五二―二五六

長期戦を戦い抜け(座談会) 古野伊之助 二五八―二七七

(出席者) 杉森孝次郎 中野政剛 平貞藏 廣瀬久忠

山之内二郎 尾崎秀実 二七八―二八八

日支戦争第三期 尾崎士郎 中川一政・画 二八九―二九七

動く政治 葛西清重 二九八―三〇七

八達嶺(小説) 尾崎士郎 三〇八―三一三

中国青年に告ぐ 蔣介石 三一四―三二四

今月の展望 若返った無敵陸軍の陣容 西郷鋼作 三二五―三二九

長篇小説 上海の真夜中 茅盾 増田敬・画 三三〇―三三四

明るき時(俳句) 中村草田男 三三四

世相漫才 秋田実 三四六―三四九

スターリンの魔手を逃れて F・K ブテンコ 三五〇―三五四

支那女の型あれこれ(隨筆) 竹田復 三五五―三五九

リュシコフの降伏と蘇満国境の風雲 山本実彦 三六〇―三六六

編集室だより 三八三―三七九

聖なる富士に誓ふ―防共盟邦親善富士登山― 濱谷浩・撮影 一一三

《グラビア》 楓爽―最近の宇垣さん―《グラビア》 木村伊兵衛・撮影 四一五

第一巻第四号 昭和十三年九月号 一日発行

台湾のカメラ紀行(グラビア)

岡田紅葉・撮影解説 六一—

高原に汗の勤勞奉仕―帝大生のアルバイツ・デ

インースト(グラビア) 白木俊二・撮影 一二—一三

ソ・満・蒙国境に蠢動する赤軍勢力(グラビア) 一四—一六

大陸の曙(扉絵) 川島理一郎 一七

戦争小説 興亜の一頁 伊地知進 木村莊八・画 一八—三二

兵馬惶惶(隨筆) 三好達治 三三—三五

父としての近衛首相 瀨田筑明 三六—四四

上海から見た長期建設 山崎靖純 四六—五四

無題(漫画) 麻生豊 五一

囲碁(趣味欄) 孔昭生 五五

荒鷲の母の日記 浅野修 五六—七〇

外務の革新陣容を衝く(戦時お役所巡り・第一

回) 伊達圭介 七一—七五

帝都撮影所廻り 林美美子 宮本三郎・絵 濱谷浩・撮影 七六—八五

滿洲經濟建設現地座談会 森田久 和田日出吉 富田勇太郎 坪上貞一 八六—一〇〇

(出席者) 山西恒郎 板倉真吾 前島秀博 松田令輔

古海忠之 田村敏雄 岡田益吉 山本実彦

雑談(隨筆) 辰野隆 一〇一—一〇三

政治小説 壊れた椅子 山浦貫一 池部鈞・画 一〇五—一二三

哈爾濱と北京(鮮滿北支を覗く(三)) 小林一三 一二四—一二八

釣(趣味欄) 一二九

濁流を遡く(安慶作戦従軍記) 鮎川堯 一三〇—一三七

支那事変展望 漢口をなぜ撃つか 尾崎秀実 一三八—一四三

大陸節 北原白秋・作詞 中山晋平・作曲 一四四—一四五

ユーモア・コント 近代兵器オンパレード 一四四—一四五

イモア・ペン・スクラム

故郷へ贈る【爆撃機の巻】 黒豹介 一四六—一四七

臭い毒瓦斯【毒瓦斯の巻】 玉川一郎 一四八—一四九

機銃の空輸【機銃の巻】 石川進介 一四九—一五一

生捕った戦車【戦車の巻】 長谷川修二 一五一—一五二

北京(映画解説) 山本実彦 一五三

及川長官会见録 山本実彦 一五四—一五九

山本実彦著「逃亡の支那を凝視めて」(*新刊紹

介) 一五九

大陸相談 河原崎長十郎 一六〇—一六一

歌舞伎芝居 一六二—一六三

旅(趣味欄) 一六四

長篇小説 若き支那(第二回) 嶺田弘・画 一六五—一七五

空中戦(短歌) パール・バック 川口繁・訳 宮柽二 一七四

事変二年を迎へて「銃後の護り」農村は如何し

てゐるか 農村ルポルタージュ 一七四

一つのモダンな風景 前川正一(一七六—一八〇)

東北の農村から 鈴木清(一八〇—一八三)

農繁通信 和田伝(一八三—一八六)

多忙(時局漫画) 須山計一 一七九

漢口陥落後の政局(動く政治) 葛西清重 一八七—一九二

無題(漫画) 麻生豊 一八九

自らの墓穴を！(時局漫画) 林京太郎 一九一

実話小説 蛮島开拓綺談 岡成志 一九三—二〇七

シビオネ(映画解説) 二〇八

現状維持か革新か 池田財政の分岐点(財界放

談) 裕辰之助 二一〇—二二七

世界ニユース 鰐淵賢舟 二二〇—二二七

戦時色のシベリア鉄道 二二八—二三三

大陸関係良書案内

雲(俳句)

土用芽(随筆)

大阪財界人に時局を聞く 座談会

(出席者) 栗本勇之助 杉道助

峰谷経一 粕谷益雄

外国為替基金(時局漫画)

案山子の進化(時局漫画)

浮世漫筆

鮮・ソ国境より

音楽とレコード(趣味欄)

冬の宿(映画解説)

転・失業者の行方(二頁時局読本)

日ソ戦とソ連の攻撃方向

張鼓峯越境(時局漫画)

映画(趣味欄)

南郷少佐のことども

航空小説 外人部隊

満ソ国境新画定論

銃後の女性より

広島病院なるAに 岡田禎子(二九九―三〇二)

白い雲 阿部艶子(三〇一―三〇二)

仕事の合間に 澤村貞子(三〇二―三〇四)

ユウモア小説 国策と豚カツ

徳川夢声 鈴木信太郎・画

将棋(趣味欄)

陋巷に北京を見る(詩)

官選か公選か 大学総長問題(二頁時局読本)

佐藤春夫 川島理一郎・絵

高松棟一郎

二一八―二三三
水原秋桜子 一二二

井伏鱒二 一二四―一二五

吉野孝一 二二六―二三七

荻谷重平

小島精一

堤寒三 二二〇

須山計一 二三四

水野広徳 二三八―二四三

中山義勝 二四四―二五〇

浅羽辰雄 二五一

三島康夫 二五二―二五三

堤寒三 二五四―二五五

二五六―二六四

二六三

二六五

鈴木英 二六六―二七〇

北村小松 二七二―二九一

武藤貞一 二九二―二九八

三〇六―三二六

三二七

三二八―三二九

三三〇―三三一

占領地区の民衆は如何に救済されて居るか?

小型木馬館

戦時商品物語

注目される日英会談(二頁時局読本)

藤澤龍一

大山千代雄

長谷川進一

阿部金剛・画

渡部五郎

安藤徳器

秋田実

山本実彦

中川一政・画

武田麟太郎

編集室だより

本社出版だより

北支通信―北京の巻―

世相漫才

大陸縦断記―津浦線突破―

成功者(小説)

編集室だより

来朝したヒットラー・ユーゲント(グラビア)

白木俊二郎・撮影

郷土の誇り、競ひたつ「鎌の選土」たち(グラビア)

古賀乾一・撮影

或る日の大日本海洋少年団(グラビア)

山川益男・撮影

実を結ぶ満州移民村(グラビア)

満州移民協会・写真

建設の上海(グラビア)

我が空爆に怯える瀕死の漢口(グラビア)

漢口猛爆に意気あがる我が荒鷲陣(グラビア)

一〇―一一

一一―一二

三二二―三二八
三二二―三二八
三二九―三三三
三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

三三三―三三三

第一巻第五号 昭和十三年十月号 一日発行

廻江(扉絵)		中村研一	一九	支那良書案内	小野忍	二三五
黃塵(小説)	上田広	向井潤吉・画	二〇―一四二	自然映画 黃浦江(写真と文)		
小さな姑娘		藤原定	一四四―一四五		リヒアルト・アングスト	二三六―二三九
英帝国の世界政策		細川嘉六	一四六―一六〇		葛西清重	二四〇―二四五
釣(趣味欄)			一六一		小泉紫郎	二四四
満ソ国境線物語		金丸精哉	一六二―一七〇	「ソ連か英国か」岐路に立つ蔣政権		
無題(時局漫画)		加藤悦郎	一六七	―武漢攻略戦をめぐる蔣の連外線―	田中香苗	二四六―二五二
戦争と画家		大野隆徳	一七一―一七三	(特集・漢口陥落後に来るもの)	堀塞三	二五〇
無題(時局漫画)		加藤悦郎	一七三	ソ満国境(時局漫画)	田中香苗	二四六―二五二
北支経営の基本問題		喜入虎太郎	一七四	旅(趣味欄)	堀塞三	二五三
露骨な形見争奪(時局漫画)		下川凹天	一七六	国家総動員法一部発動 医者と技術者の総動員		
無題(時局漫画)		岡本一平	一七八	(二頁時局読本)	山本実彦	二五四―二五五
漫画ルポルタージユ	大東京のお目覚め			畑最高指揮官会見録	堀江邑一	二五六―二六〇
	加藤悦郎・岸文夫 絵・文		一八〇―一八八	漢口陥落後の国共関係(特集・漢口陥落後に来るもの)	岡本一平	二六一―二六七
世界トピック			一八八	歌舞伎(時局漫画)	堀江邑一	二六七
囲碁(趣味欄)			一八九	「東亜文化協議会」の誕生(二頁時局読本)	岡本一平	二六八―二六九
新生活運動の正体		池崎忠孝	一九〇―一九九	共産支那の旅	ワルター・ボスハルト	二七〇―二七九
無題(時局漫画)		堀塞三	一九二	新語解説		二七九
支那軍備課題認識(時局漫画)		林京太郎	一九五	風水害の根絶策(二頁時局読本)	長坂慶一	二八〇―二八一
世界国民主義の動き		木下半治	二〇〇―二〇三	座談会 漢口陥落後はどうなる(特集・漢口陥落後に来るもの)		二八二―三〇一
長篇小説 若き支那(第三回)				(出席者) 高木陸郎 清水盛明 松村秀逸 沖野亦男		
パウル・バック 川口繁・訳	嶺田弘・画		二〇四―二二四	町田梓楼 岩淵辰雄 吉岡文六 山本実彦		
海堡(俳句)	横山白虹		二一三	映画(趣味欄)		二〇二
音楽とレコード(趣味欄)			二一五	漢口防衛に狂奔する敵将(特集・漢口陥落後に来るもの)	吉岡文六	三〇三―三〇八
東西財界の時局認識を打診する(財界放談)		裕辰之介	二一六―二二一	時局新語解説		三〇八
新しく光る眼(漫画)		小泉紫郎	二二〇	演劇(趣味欄)	北村喜八	三〇九
大陸相談			二二二―二三三	更生記(第二回)(小説)高見順 阿部金剛・画		三一〇―三二七
武漢三鎮の地理―雲夢の跡―	内山完造		二二四―二三八			
浮世漫筆	水野広徳		二三〇―二三五			

改組された協和会はどこへ行く(二頁時局読本)

石黒圭三郎 三二八―三二九

北支雜記

山本実彦 三三〇―三四五

将棋(趣味欄)

桂太郎 三四七

戦時経済の參謀本部(戦時お役所廻りの卷)

大渡原人 三四八―三五一

漢口陥落近し(漫画)

麻生豊 三五二―三五三

漢口戦後に来るもの(支那事变展望)

尾崎秀実 三五四―三六〇

(特集・漢口陥落後に来るもの)

岡本一平 三五九

頼み(時局漫画)

小出秀世 三六一

スポーツ(趣味欄)

木村毅 三六二―三七一

大陸に渡る花嫁部隊―彼女たちはあちらで幸福か―

志村義雄 三七二―三七九

―お婿さんはどうしてきめるか―

大宅壮一 三八〇―三八四

ヒトラー・ユーゲントの一週間

土屋文明 三八四

傷兵はかく更生してゐる―啓成社訪問記―

岩村三千夫 三八五―三八九

閑居の吟(短歌)

杉浦幸雄 三九〇

陳誠論

須山計一 三九一

戦時風俗漫画

大西齋 三九二―三九八

ヒットラー・ユーゲント来たる／女学生キミ

三九〇―四〇一

・ボク問題

四〇二―四一五

即求即職／代用品時代

小関東一郎

樺太見たまま

児島博 鈴木聡

本社出版だより

鈴木東民

赤信号のチエツコ問題(二頁時局読本)

四〇二―四一五

報道戦線はかく活躍してゐる―上海軍報道部現

四〇二―四一五

地座談会―

久重福三郎 成田毅雄 山本三郎

(出席者)

中山省三郎 伊地知進 火野葦平

久重福三郎

小関東一郎

成田毅雄

山本三郎

山本三郎

伊地知進

伊地知進

火野葦平

火野葦平

児島博 鈴木聡

梶原国生 森勝次 安宅彦三郎 小澤正元

後藤映範 堀口瑞典 松隈敬三

編集だより 四一六

第一巻第六号 昭和十三年十一月号 一日発行

傷病兵慰問の交響楽(グラビア) 濱谷浩・撮影 一一三

秋を訪ねるヒットラー・ユーゲント(グラビア) 四一五

興亡の危局にたつチエツコ(グラビア) 六一七

九江だより(グラビア) 八一九

白衣を縫ふ銃後の女性(グラビア) 杉山吉良・撮影 一〇一―一〇一

防空演習習下の帝都(グラビア) 一一一―一一三

大武漢最後のあがき(グラビア) 一四一―一四五

広東(グラビア) 一六

麗日(扉絵) 一七

人造国家(小説) 黒田礼二 吉田貫三郎・画 一八一―三八

浮世漫筆 水野広徳 三九―四三

注目すべき「産青連」の動き(二頁時局読本) 青木恵一郎 四四―四五

百姓は北滿移民地をどう見たか―日本農民連盟 木村武雄 四六―五一

新語解説 高木寿一 五一

強力国家の建設と大陸政策 佐藤惣之助 五二―五九

釣(趣味欄) 竹内夏積 六〇

広東を語る 石川進介 六一―六八

国民政府の官吏頹廢(時局漫画) 竹澤倫夫 六九―七三

街に出て来た代用品 杉浦幸雄 七二

流行品(時局漫画) 小穴隆一・画 七四―八七

小説 裏町の劉先生 村上知行

小説 裏町の劉先生 村上知行

小説 裏町の劉先生 村上知行

小説 裏町の劉先生 村上知行

故事来歴大陸版

対支文化工作につき

スポーツ(趣味欄)

第八路軍とゲリラ戦術

大陸相談

海外同胞は事変をどう認識したか

私の顔に寄せる―自画自賛―(絵と文)

久米正雄 宇野千代 新居格
藤田嗣治 古川緑波 石黒敬七

将棋(趣味欄)

大陸人物・わしが国さ

支那軍の惑星 湯恩伯

商店法の実施(二頁時局読本)

連合委員会の成立と広東攻略(支那事变展望)

蔣介石の最後(時局漫画)

銃後農村漫景(漫画)

更生記 第三回(小説) 高見順

映画(趣味欄)

対支院の決定(二頁時局読本)

世相問答 宇野千代 藤川栄子 岡成志

永戸俊雄 横井福次郎/杉浦幸雄・

漫画 濱谷浩・カメラ

音楽とレコード(趣味欄)

兵士の記録

前進(手記) 後藤丈民(一八四―一八九)

故里(短歌) 木村要(一八七)

敵襲(手記) 植田優司(一八九―一九一)

戦線の秋(詩) 坂口淳(一九〇)

北支戦線だより(通信) 山本茂雄(一九一)

新漫画派集団

山本実彦

宇野庄治

奥村栄

田原春次

新居格

石黒敬七

伊藤金次郎

白鳥香一

菱山辰一

吉岡文六

石川進介

須山計一

阿部金剛・画

村井鉄太郎

永田町二

岡成志

永戸俊雄

横井福次郎

杉浦幸雄

濱谷浩

カメラ

K・K生

八八―一九一

九二―九五

九六

九七―一〇一

一〇二―一〇三

一〇四―一〇九

一一〇―一一二

一一三

一一四―一二二

一二三―一二五

一二六―一二七

一二八―一三三

一三二

一三四―一三五

一三六―一五四

一五五

一五六―一五七

一六〇―一八二

一八三

霞ヶ関の変質(二頁時局読本)

共産支那の旅(二) ワルター・ボスハルト

戦時経済の総本山(戦時お役所巡り・大蔵省の

巻)

広東攻撃戦略論

演劇(趣味欄)

トランクの中の夫人(小説) 細田民樹

隴海線爆破決死行

東京千一夜(映画解説)

雨の揚子江―輸送船便乗記―

特務兵の日記

荻白し(俳句)

若き支那 パール・バック

一隊の兵(短歌)

現地報告 満洲青少年義勇軍の生活

困基(趣味欄)

支那軍はかく戦ふ―支那側従軍記―

武漢前線を行く 長江(二九八―三〇一)

南涛線を巡る 汪鑑(三〇一―三〇二)

長江前線より帰つて 孫福熙(三〇二―三〇四)

宇垣外相辞職の渦紋(動く政治)

葛西清重(三〇五―三二〇)

「大陸と文学」つい暇なので(時局漫画)

銃後のベン部隊(時局漫画)

荒茶の湯

肅清された学生街(二頁時局読本)

大陸開発前進せよ(財界放談)

大陸関係良書案内

志賀哲郎 一九二―一九三

志賀秋生 一九四―二〇二

大蔵省の 二〇三―二〇七

井上謙吉 二〇八―二二四

北村喜八 二二五

小磯良平・画 二二六―三三七

小柳潤一 二三八―二四七

立野信之 二四八―二四九

林泉 二五〇―二六三

東鷹女 二六四―二七三

川口繁・訳 二七二

嶺田弘・画 二七四―二八八

植松寿樹 二八七

孔昭生 二九〇―二九六

石川義夫 二九七

加藤悦郎 三〇八

長谷川春子 三一〇―三二三

井関文夫 三一四―三二五

裕辰之介 三一六―三二三

松本慎一 三一六―三三〇

世界ニュース	岸丈夫	三二一—三三三
進むアジア号(時局漫画)		三二二
エノケンの大陸突進(映画解説)		三二四—三二五
チエツコを繞る欧州少数民族	木下半治	三二六—三三三
『黒い土』と『茶色の服』 満洲移民地ルポルタージュ	徳永直	三三四—三七八
本社出版だより		三七九
大陸旅行列車時間表		三八〇—三八三
編集室だより		三八四
第一巻第七号 昭和十三年十二月号		
戦ふ兵隊—武漢攻略戦より—(グラフィック)		一日発行 ^②
名取洋之助/梅本左馬次/小柳次一・撮影		
佗助(扉絵)	山村耕花	一一一—一六
現地報告 兵隊とともに(南支従軍日記)	栗林農夫	一七
雲南雜俎	緒方昇	一八一—四八
山の町(隨筆)	吉田絃二郎	四九—五四
広東生活三十年	森岳陽	五五—五八
仏領印度支那の話	石川汪洋	五九—六七
支那語教室	曹欽源	六八—七二
密偵名簿(小説)	海野十三	七三
大陸相談	宮崎世龍	七四—九〇
古莊幹郎中將	佐藤惣之助	九一—九三
南京展望(詩)	知識真治	九四—九七
最後の地盤 西南支那を解剖する		九八—九九
東北農村の旅より(漫画と文)		一〇〇—一〇七
音楽とレコード	加藤悦郎 岸丈夫	一〇一—一六
		一一七

移動する民族	徳永直	一一八—一三七
漢口市内漫想(漫画)	石川義夫 横井福次郎	一三八—一三九
ブリユツヘルはなぜ失脚したか(二頁時局説本)	園部四郎	一四〇—一四一
混乱の香港	足利緝	一四二—一四九
帝都歡喜(短歌)	岡山巖	一四七
西安討つべし	橘善守	一五〇—一五五
招魂祭(写真と文)		一五六—一五七
長篇小説 若き支那 第五回	芥棟平・文	
旅(俳句)	門奈次郎・写真	一五八—一六七
塩澤中将与近藤少将	星野立子	一六七
武漢・広東攻略戦総評	一原道常	一六八—一七一
政界昨今の鳥瞰(動く政治)	大場弥平	一七二—一八二
淑香伝(宝塚少女歌劇雪組上演)	葛西清重	一八三—一八七
漢口陥ちる日(連日清国秘密会合秘聞)	細野寿美雄	一八八—一八九
満洲梨園の名花	平尾則人	一九〇—一九四
戦場風景	李香蘭	一九五
工場体操(俳句)	北村小松	一九六—二〇一
北支建設の進行状態	石田波郷	一九九
ユウモア小説 非従軍作家	梨本祐平	二〇二—二〇八
蔣の宣戦説と米国の中立法(二頁時局説本)	伊馬鶴平 鈴木信太郎・画	二一〇—二二五
袋小路の蔣介石(支那事变展望)	蛭山芳郎	二二六—二二七
有田外相と八田拓相	吉岡文六	二二八—二三三
反日戦線は前進か後退か—前面に出たフランス—	山浦貫一	二三四—二三七

助長行政への幕進(戦時お役所巡り・内務省の卷)
江南にて(詩)
米国映画愈よ来たる(二頁時局読本)

大陸武者修行

海南島を攻略すべし

何故支那は和平しないか

武漢攻略と池田聲明(財界放談)

大陸関係良書案内

「馬仲英の逃亡」

「新日本の地平線」

スポーツ

事変新段階と国民再編成 座談会

(出席者) 阿部真之助 稲村隆一

野崎龍七 宮崎龍介 蝦山政道 山本実彦

漢口遼江入城記

地方政権顛落の蒋政権

外誌はかく見る

更生記 第四回

航行遮断物語

南支の戦捷をきく(短歌)

漢口一番乗従軍記

九日間の猛襲

漢口陥落 銃後の歡喜報告(漫画)

大陸通信(愛読者欄)

松本慎一 二三八―二四四

長坂慶一 二四五―二四九

中山省三郎 二五〇―二五一

長谷川修二 二五二―二五三

石黒敬七 二五四―二五八

井上謙吉 二五九―二六一

根津知好 二六二―二六四

裕辰之介 二六五―二七〇

太田七郎 二六五―二六七

松本慎一 二六七―二六九

宇野生 二七一―二七四

高橋亀吉 二七四―二九三

山本実彦

龜井貫一郎 二九四―二九五

浅羽辰雄 二九六―三〇四

杉山平助 三〇五―三一一

横田実 三二二―三三一

高見順 阿部金剛・画 三二四―三二七

石丸藤太 三二八―三三六

四賀光子 三三三

廣部正義 三三七―三三九

森比呂志 三四〇―三四一

小泉紫郎 三四二―三四三

森比呂志 三四二―三四三

徳王と蒙古の英雄を語る

中国国民に告ぐる書

姑娘の父母

清水安三氏について

大陸旅行時間表

編集後記

山本実彦 三四四―三四九

蒋介石 三五〇―三五四

伊原宇三郎・画 三五五―三七九

編集部 三五五―三五七

三八〇―三八三

三八四

注 (2) (武漢・広東陥落特集) が組まれた。

第二巻第一号 昭和十四年新年号 一月一日発行

近衛首相の清閑自適(グラビア)

朝陽映島(グラビア)

遺族に伸びる暖い銃後の手(グラビア)

大陸行進曲(グラビア)

山村の人々

訪日の維新政府巨頭(グラビア)

旭(扉絵)

逃走(小説)

支那の正月

東の女性(絵と文)

西の女性(絵と文)

学生に与ふ

阜新県なる甥に与ふ(短歌)

日本の黎明(小説) 貴司山治

軍財の再抱合(財界放談)

長期建設の春(漫画)

門泰次郎・撮影 四―七

濱谷浩・写真 八―九

伊藤永之介 一〇―一五

大仏次郎 松野一夫・画 一六

竹内夏積 一七

桂ユキ子 一八

田村孝之介 一九

新明正道 二〇

吉田貫三郎・画 二一

裕辰之介 二二

森比呂志・合作 二七

小泉紫郎 二八

森比呂志・合作 二九

北京通信	飯塚朗	九〇
敵地五千哩決死の脱出記	米村耿二	九一―九九
株界を震撼した三日間(二頁時局読本)	山野満	一〇〇―一〇一
今年は無駄を省きませう(座談会)		一〇二―一二三
(出席者) 兼常清佐 石黒敬七 河崎ナツ 窪川稲子		
新居好子		
杉浦重剛先生の南進論	猪狩史山	一二四―一二八
征戦将士(俳句)	白田亜浪	一二九
大陸相談	葛西清重	一三〇―一三三
議會の前奏曲(動く政治)	宗村丑生	一三四―一三七
ハノイ雜記	孔昭生	一三八―一四一
困碁	長谷川時雨	一四二
新じやがたら文	尾山篤二郎	一四三―一五〇
愛国の歌		一五一
更生記 第五回(小説) 高見順 阿部金剛・画		一五四―一六九
日独文化協定の成立(二頁時局読本)	三枝博音	一七〇―一七一
快翔コンドル機	村井潔	一七三―一七七
大陸千一夜 泥棒と漂流の巻(絵と文)	清水崑	一七八―一八二
九国条約と東亜新事態	神川彦松	一八三―一八九
春場所の強豪新鋭	鈴木彦次郎	一九〇―一九六
海軍陸戦隊(映画解説)		一九八―一九九
ふぐの話(文と画)	小野佐世男	二〇〇―二〇一
郷土部隊の戦線レポ	宮城聡	二〇二―二〇五
西北支那の赤色ルート	三島康夫	二〇六―二一二
強羅(俳句)	山口誓子	二一三
中央政府の成立近し(支那事変展望)	吉岡文六	二一四―二二八
支那語教室	曹欽源	二二九
生きたる雑草(小説) 伊地知進 向井潤吉・画		二二〇―二五五
起ち上るインテリゲンチヤ	山崎謙	二六二―二六七
梁鴻志氏は語る		二六八―二六九

田家鎮へ十里―江北奮戦手記―	谷口勝	二七一―二七七
大陸通信(愛読者欄)		二七八―二七九
相剋する欧州政局	益田豊彦	二八〇―二八六
大いなる春(短歌)	吉井勇	二八七
浙江省長会見記	山中峯太郎	二八九―二九六
借金の構図(小説)	和田伝 松山文雄・画	三〇〇―三〇九
コント・ヴァラエティ 長期建設第二年 ユー		
モアーペンスクラム編		
こはれた時計 乾信一郎(三一―三二二)		
祖母の愛 長谷川修二(三二―三三四)		
恋愛統制 黒豹介(三一―三二五)		
貯金発心 石川進介(三一―三二七)		
設計図 玉川一郎(三一―三二八)		
野に育つ子供たち 岡成志(二二―三一)	木村禮八郎	三二一―三二六
日滿支経済懇談会の成果		三二七
大陸からどんな求人があつたか?		三二八―三四三
姑娘の父母(物語) 清水安三 伊原宇三郎・画		三四四―三五六
奥支那秘境の大探検	小山莊一郎	三五七―三六二
南京の児童と俘虜	浅野晃	三六三―三六七
スケート漫筆	諏訪弘	三六七
募集懸賞予選発表		
戦時実話 懺悔の突撃路	我妻大陸 高井貞二・画	三六八―三九四
出版だより		三九七
与野農民講道館訪問記		三九八―四〇六
支那事変の将来	H・V・レッドマン	四〇七―四〇九
南に飛ぶ前夜	山本実彦	四一〇―四一四
安南夜話(小説)	村松梢風 今村虎士・画	四二二―四二六
大別戦線従軍記	中谷孝雄	四二八―四五六
大陸旅行時間表		四五八―四六一

編集室だより

第二巻第二号 昭和十四年二月号 一日発行

四六二

工場地帯を行く(グラビア) 湯川共夫・撮影 四一七

演習の一日(グラビア) 酒井菊雄・撮影 八一九

広東の横顔(グラビア) 大宅壮一・撮影 一〇一

仏蘭西写真集(グラビア) 森一良(撮影・文) 一一三

長期建設のひびき(グラビア) 門泰次郎・撮影 一四一

白銀を蹴つて(グラビア) 福沢一郎 一六

早春(扉絵) 福沢一郎 一七

怪奇小説 海豹島 久生十蘭 一八

手帖の満洲(*絵と文) 中村篤九 五三

長期建設と東亜農業社会 風早八十二 五五

エチオピアは如何にして開発されつゝあるか 木下半治 五九

蒋介石を操る猶太人 伊井藤吉郎 七一

冬の句(俳句) 久保田万太郎 七八

大陸相談 後藤富男 八五

蒙古高原から 清水崑 八六

満州片言抄(*絵と文) 清水崑 九〇

雲南鉄道(小説) 清水崑 九五

O.F:ジルベエル 岡田真吉・訳 九八

呉佩孚氏に寄す(短歌) 岡野直七郎 一二六

支那語教室 曹欽源 一二七

無敵皇軍の威容(戦時お役所廻り・陸軍省の巻) 西郷鋼作 二八

天津通信 立花雪夫 一三〇

悩みを増す蒋介石 吉岡文六 一三七

吉岡文六 一三八

国策移民の花嫁 林二九太 一四四

光る我が軍部科学陣 橋爪檳榔子 一五七

廈門と広東 土師清二 一六二

伊藤永之介作「鷺」(名作絵物語) 吉田貫三郎 一六九

支那事変の処理と平沼内閣 三輪寿壮 一七〇

本誌懸賞募集に就てお断り 一七六

幽霊大陸へ行く(逃走 改題)(小説) 一八一

近衛公から平沼男へ(動く政治) 大仏次郎 一八二

武器持てぬ部隊 葛西清重 一九九

木の無い大陸(短歌) 小栗孝則 二〇〇

北澤店員道場の青少年 吉植庄亮 二〇七

望月文吾・写真 本誌A記者・記事 二〇九

東亜協同体の建設 永田清 二一〇

ほし鯨(俳句) 星野麦人 二一六

戦車の華 西住大尉 二二三

噫! 忠烈、西住戦車長 西条八十 二二四

軍神西住大尉(歌) 細身惟雄 二二四

底訓が生んだ武人の亀艦 三岡健次郎 二二五

士官学校当時の思出 高石長次郎 二二五

戦場回顧 高石長次郎 二四八

出版部通信 阿部金剛・画 二四九

更生記(小説) 高見順 二五〇

魚と野菜のお正月(中央市場めぐり) 阿部金剛・画 二五九

本誌T記者・文 加藤悦郎・画 二六〇

平沼内閣の人々 阿部真之助 二六六

渡満スケッチ日記 小山内龍 二七二

トンキヤンのワンタンミン大人(小説) 北村小松 二七五

池田から石渡・八田へ(財界放談) 太田耕士・画 二八八

裕辰之介 二八九

上海郊外の小原農村―長期建設は之に倣へ―

故人の園(小説)

地中海の底で魚を追ふ日本人
新しき朝鮮
満州で見た人々(*絵と文)

春場所観望
名著案内

東亜連盟論

支那思想と日本

鐘紡理化学研究所

汪兆銘脱出と其波紋

大陸旅行時間表

編集室だより

第二卷第三号 昭和十四年三月号 一日発行

春寒(グラビア)

躍進満洲の産業(グラビア)

蒙疆情景(グラビア)

北京の生活(グラビア)

拓けゆく北支産業(グラビア)

中支抒情(グラビア)

甦える南支那(グラビア)

煙台支那軍のトーチカ(グラビア)

日満融和スケート(グラビア)

つはものの夢の跡(扉絵)

吳佩孚將軍

支那の姑娘達

大陸千一夜(二)(黒豚と張鼓峯の巻)

木村毅

川端康成

小野桃代

林房雄

近藤日出造

尾崎士郎

嘉治隆一

山崎富美雄

横山五市

山本実彦

山本実彦

山本実彦

山本実彦

森二良・撮影

島崎鷄二
梨本祐平
伊地知進
清水崑

一 二九五―三〇八
二 三一―三二二
三 三二―三三二
四 三三―三四三
五 三四―三五五
六 三五―三六六
七 三六―三七七
八 三七―三八八
九 三八―三九九
一〇 三九―四〇〇
一一 四〇―四一一
一二 四一―四二二
一三 四二―四三三
一四 四三―四四四
一五 四四―四五五
一六 四五―四六六
一七 四六―四七七
一八 四七―四八八
一九 四八―四九九
二〇 四九―五〇〇
二一 五〇―五一
二二 五一―五二
二三 五二―五三
二四 五三―五四
二五 五四―五五
二六 五五―五六
二七 五六―五七
二八 五七―五八
二九 五八―五九
三〇 五九―六〇
三一 六〇―六一
三二 六一―六二
三三 六二―六三
三四 六三―六四
三五 六四―六五
三六 六五―六六
三七 六六―六七
三八 六七―六八
三九 六八―六九
四〇 六九―七〇
四一 七〇―七一
四二 七一―七二
四三 七二―七三
四四 七三―七四
四五 七四―七五
四六 七五―七六
四七 七六―七七
四八 七七―七八
四九 七八―七九
五〇 七九―八〇
五一 八〇―八一
五二 八一―八二
五三 八二―八三
五四 八三―八四
五五 八四―八五
五六 八五―八六
五七 八六―八七
五八 八七―八八
五九 八八―八九
六〇 八九―九〇
六一 九〇―九一
六二 九一―九二
六三 九二―九三
六四 九三―九四
六五 九四―九五
六六 九五―九六
六七 九六―九七
六八 九七―九八
六九 九八―九九
七〇 九九―一〇〇

事変処理の具体的考察

幽霊大陸へ行く(第三回)(小説)

広東雜記

満州五ヶ年計画の実績に就て

赤露の伏魔殿 クレムリン物語(実話読物特集)

広東陣中の火野葦平

協和会と新民会

スベインの新政態と列強の角逐

早春の峠路(短歌)

軍需工場(小説)

移民村の日記

インテリ兵士の前線通信

陣中迎春(*俳句)

長期建設の財政計画と租税政策の役割

春場所の英雄―出羽湊と肥州山―

時局の人氣者 金屬職工

孟姜女物語―万里長城挿話―(実話読物特集)

漁を繞る日ソの対立

海賊と火事―南支風物誌―

蒙古実務学院訪問記

支那人の生活を語る・放談会

(出席者) 天野元之助 内山完造 影山巍 木村重

久重福三郎 日高清麿 中山省三郎 佐藤績

テレビジョンは何時実用化するか

石炭液化的話

清沢潤 四四―五二

大佛次郎 松野一夫・画 五四―六五

山本実彦 六六―七五

小泉精一 七六―八四

荒木彦三郎 八五―九三

栗林農夫 九四―一〇一

橘善守 一〇二―一〇四

益田豊彦 一〇五―一一二

若山喜志彦 一一三

大月源二・画 一一四―一三三

大瀧重直 一三四―一四二

加藤恒雄 一四三―一四九

井川一九 一四八

高木寿一 一五〇―一五五

舟橋聖一 一五六―一六〇

奥田秀治 一六一―一六六

小田獄夫 一六七―一七四

竹尾弼 一七五―一七九

大宅壮一 一八〇―一八六

田村泰次郎 一八七―一九一

影山巍 木村重 一九二―二〇六

中山省三郎 佐藤績 二〇七―二一〇

寮佐吉 二一〇―二二三

有栖晴一 二二〇―二二三

吳佩孚の蹶起(支那事変展望) 吉岡文六 二二四―二八
クーデンホーフ光子夫人(実話読物特集)

棉畑(短歌) 霜丈之介 二二〇―二三〇
対支政策と国民再編成 萩原井泉水 二三一

私が若し大陸へ行つたら 平貞藏 二二二―二二七
宣撫通信 伊馬鶴平(二三八―二四一)

狗園物語 乾信一郎(二四一―二四四)
大陸への憧れ 石黒敬七(二四四―二四六)

大陸相談 田原春次・担任 二四八―二五一
スペインのお雇ひ飛行士(実話読物特集)

我觀七十四議會(動く政治) 相模亮 二五二―二五九
特務兵が残した言葉(童話) 阿部真之助 二六〇―二六四

劍夢(小説) 酒井龍輔 二六六―二六七
出版だより 向井潤吉・画 二六八―二八六

二つの握拳―習慣の相違― 内山完造 二八八―二八九
香港の一夜に語る(*座談会) 二九〇―二九五

(出席者) 劉明海・黃盛龍 ヘルマン・ホフマン 神奈川太郎
映画物語 その前夜 永島一朗 二九六―二九八

新支那を担ふ人々 宇野庄治 二九九
―蒙疆 臨時、維新三政権の人々― 田中香苗 三〇〇―三〇六

安南皇太子亡命記(実話読物特集) 近藤一郎 三〇八―二二五
近詠(短歌) 土岐善麿 三一七

三民主義とは? 知識真治 三二八―三三三
文化建設の鍬はかく下されたり

―北支宣撫班長座談会― 三三四―三五二
(出席者) 福山寛邦 鈴木庫三 一氏義良 藤井顕孝 清水斉

福岡駒雄 島津勝

二十日間の大陸旅行日程と費用 小宮山祿郎 三五四―三六五
満州旅日記 菊地東洋 三六六―二七四

満州にはどんな職業があるか 村山春治 三七五―二八三
満州の風土病・伝染病 打木村治 三八六―二八九

満州農業移民になるには 喜多逸郎 三九〇―二九三
満州移民地の發展 木本利一 三九四―四〇〇

北支の鉄道沿線案内 白石文男 四〇一―四〇三
天津 白石文男 四〇四―四〇五

北京 北支・満州の農業事情 赤津益造 四〇六―四一〇
春島と濟南 我妻大陸 四一二―四一七

動き出した北支那開發会社 殿生文雄 四一八―四二五
太原 橘善守 四二六

厚和と包頭 小山緑郎 四二七―四二九
万里長城を語る 星加減 四三〇―四三八

中支沿線ガイド 安東礼吉 四四〇―四四五
大陸の長期建設と中支振興会社の役割

上海 堅山利忠 四四六―四五〇
南京 中西治勇 四五一―四五三

漢口 高木令二 四五四―四五五
杭州と蘇州 北村君雄 四五六―四五七

廬山から 玉野一男 四五八―四六〇
廣東・香港・厦門案内 扇谷正造 四六一―四六三

かぐはしき嶺南 小川涉 四六四―四六九
湘桂鉄道の完成 程靖宇 四七〇―四七二

南支の島々―海南島・東沙島・西沙島・瀾州島― 于友 四七三―四七五
吉田広志 四七六―四八四

湖南・広西・貴州踏破記 中央社記者 四八五―四八七
日用支那語(北・中・南)会話 曹欽源・編 四八八―四九五

支那風俗月曆 井上紅梅 四九六―四九八
 支那ニユース 四九八
 蒙御免大陸浪人見立 五〇〇―五〇七
 大陸に関する書籍一覽 五〇八―五一一
 大陸旅行時間表 五二二
 編集室だより

第二卷第四号 昭和十四年四月号 一日発行

大陸の春(グラビア) 一
 海南島を行く(グラビア) 二―三
 南海を越えて(グラビア) 四―七
 春の感触(グラビア) 八―九
 写真漫画 或る日のムッシウ・ドンキホーテ 森二良・撮影 一〇―一一
 (グラビア)
 技術日本の若き戦士(グラビア) 前沢秀憲・撮影 一二―一三
 植物の生態(グラビア) 望月文吾・撮影 一四―一五
 伸び行くもの(グラビア) 森二良・撮影 一六
 無題(挿絵) 一七
 小説 桜だより 石坂洋次郎 鈴木信太郎・画 一八―四二
 白玉(短歌) 太田水穂 四三
 林口夜話 和田伝 四四―五二
 怪教 シヤーマン教 板屋猛 五三―五五
 低迷逡巡の現状とその打開 阿部賢一 五六―六四
 学生能の流行 石田幸太郎 六五
 揚子江沿岸風景(従軍手記) (絵と文) 高井貞二 橋本徹郎 六六―七一
 支那芝居の話 安藤徳器 七二―七七
 浙贛鉄路 橋善守 七八―八一

法幣前途観の大転換 木村禮八郎 八二―八七
 旅雁抄(詩) 中山省三郎 八八―九〇
 日本へ来た姑娘達(座談会) 九二―九七
 (語る人) 趙慧珍 蕭淑英 白玉琴 胡鳳椿 清水安三
 沖野岩三郎 吉田勝恵 山本実彦
 興亜へ巣立つ! (漫画) 小泉紫郎 森比呂志 九八―九九
 伊太利の農業移民の話 原田讓次 一〇〇―一〇四
 支那語教室 曹欽源 一〇五
 海州攻略其他(支那事变展望) 横田実 一〇六―一一〇
 大陸通信(愛読者欄) 一一一―一一三
 田植歌(小説) 丸山義二 松山文雄・画 一一四―一二八
 匪賊と農村 何佩之 一二九―一三四
 租界の背後を衝く 吉岡文六 一三五―一三九
 金持の廃品 岡成志 一四二―一四四
 国の春(俳句) 伊藤松宇 一四五
 支那小学生的慰問文 山本兼久 一四六―一四九
 政情転換の機会 馬場恒吾 一五〇―一五五
 スマトラ紀行―鰐の剥製をつくる女― 羽生操 一五六―一六二
 興亡支那漫画行(漫画と文) 中村篤九 一六四―一六九
 俳句三代集の出づるに際して 水原秋桜子 一七〇―一七一
 蘭州空爆現地座談会 栗原大尉 山本中尉 一七二―一七八
 (出席者) 河島少佐 酒本大尉 大村中尉 芝刈少尉
 山田中尉 若山中尉
 影山少尉 斎藤正躬
 新増税と新物動計画 高田晋作 一八〇―一八三
 兵隊さんから 南支戦闘実記 岩淵二郎 一八四―一八五
 グラム島の軍事的価値 石丸藤太 一八六―一八九
 天の秘密・地の秘密(小説) 坪田讓治 三雲祥之助・画 一九〇―二〇〇
 租界・テロ・工部局 戸山新一 二〇二―二〇八

大陸相談

鴉片戦争挿話

慰問袋に名著を、敢て望む・皇軍の一兵士として

働く一家(名画誌上封切)

フランコを繞る英伊対立

春の六大学野球戦線展望

出版日より

片々録

中間部隊 ゼンセンルポルタージユ

新進歌手群像

陽春隨筆

旅 美川きよ(三八〇—三八一)

親しい仲 宇野千代(二八一—二八三)

春の湖 矢田津世子(二八三—二八五)

ふだん着 窪川稲子(三八五—二八七)

満洲小売物価表

来島恒喜「南海壯士伝」のはしがき

大陸豆ニユース 逃げ廻る大学

熱帯地の兵隊(短歌)

懸賞小説実話募集(審査発表と再募集)

現れ出でた木炭自動車

赤い月(小説) 藤沢桓夫 大槻源二・画

金龍館 大陸千一夜(3)(牛と馬の巻)〈漫画と文〉

新広東拾遺 火野葦平・文 梅本左馬次・写真

大陸道中膝栗毛 中村正常

南の国々・鳥々を語る(座談会)

(出席者) 飯泉良三 岡村亨 武富邦茂 鹿島守之助

齋藤正雄 山本実彦

二〇九—二二三

二一四—二三四

二三五

二三六—二三七

二三八—二四三

二四四—二四五

二四六

二四八—二四九

二五〇—二七六

二七八

新秩序建設の一案 宮崎正義氏の「東亜連盟論」

大陸旅行時間表

編集室だより

五月の大陸(グラビア)

新しき秩序(グラビア)

流離の民(グラビア)

広東の表情(グラビア)

英・仏租界を行く(グラビア)

樹海見え沼温む(グラビア)

薫風を湛へつゝ(グラビア)

活躍する気球隊(グラビア)

然も我等は征く(グラビア)

王家の薬王廟(扉絵)

南海壯士伝 風蕭々(小説)

片夢(短歌)

かいつぶり(隨筆)

清水安三(人物・エビグラム)

事変処理につき

支那語教室

春風とハイキング

嵐を呼ぶ欧州

欧州の危機と日本

バルカンへ進出するドイツ

三七九

三八〇—三八三

三八四

一

二—三

四—五

六—七

八—九

一〇—一一

一二—一三

一四—一五

一六

一七

一八—一五三

五四

五五—五九

六〇

六一—七〇

七一

七二—八五

八六—九二

九二—九九

民主主義国家群の蹶起

五月場所展望 十五日制と大関問題 城戸又一 九九―一〇四
 汪兆銘の決意揺がず 彦山光三 一〇五―一〇七
 春七章(俳句) 横田実 一〇八―一一二
 法を超えるもの(小説) 富安春生 一一三

五月の二大競馬 甲賀三郎・大月源二・画 一一四―一二八
 評論議會を評す 楠茂市 一二九―一三一
 満支小学校教員の就職案内 山浦貫一 一三二―一三八
 海南島・北から南へ 前川正一 一三九―一四三
 名作絵物語 若い人 中村伸康 一四四―一五二

北樺太の生活 石坂洋二郎・作 鈴木信太郎・画 一五四―一六一
 広東省治安維持会長 彭東原氏と語る 岡栄 一六二―一七〇
 統制強化と財界 内藤英雄 一六二―一六九
 台湾一周旅行 島田晋作 一七一―一七五
 「大陸」豆ニユース 重慶・ビルマ航空路延期 龍瑛宗 一七六―一八二
 新桃太郎出でよ 内山完造 一八四―一八五
 漫画・銃後工場陣 須山計一 一八六―一八七
 二少年(遺稿)―或る特務兵の手記― 片上稔 一八八―一九七
 幽霊大陸へ行く(小説) 大仏次郎 一九八―二〇九

日ソ漁業交渉成立 松野一夫・画 一九八―二〇九
 抗戦支那の規ひつゝ、あるもの 角谷健次 二一〇―二一一
 大陸通信(愛読者欄) 田中香苗 二一四―二三三
 真崎甚三郎(人物・エビグラム) 早川璋 二二二―二二七
 騎兵突撃戦 森田藤五郎 二二八―二四三
 溪と海の釣 佐藤垢石 二四四―二四七
 大陸経営と科学の使命―黄河文化の復興―

期待される洋画陣 宮本武之輔 二四八―二五七
 小川正子(人物・エビグラム) 吉村正己 二六〇―二六二
 大陸道中膝栗毛 田辺耕一郎 二六三
 古来の句集と三代集 中村正常 二六四―二七三
 一夜の姑娘(小説) 星野麦人 二七四―二七五
 懸賞小説実話募集 高井貞二・画 二七六―二九二
 平沼内閣の反省 葛西清重 二九八―三〇二
 春光(俳句) 長谷川かな女 三〇三
 国民生活と物資問題(座談会) 野崎龍七 三〇四―三二八
 (出席者) 生田泰蔵 金子しげり 河野密 寺本孝
 秋永月三 鈴木孝五郎

印度政界の二惑星―ネヘルとアンベデカー― 賀川豊彦 三三二―三三六
 大陸相談 三三七―三四〇
 出版だより 三四一
 花吹雪劇場行脚(絵と文) 小野佐世男 三四六―三五三
 南昌攻略と今後の抗日陣容 井上謙吉 三五四―三五八
 兵馬倥傯(小説) 立野信之 今村寅士・画 三六〇―三七八
 大陸旅行時間表 三八〇―三八三
 編集室だより 三八四

(わだ・たかし 三重大学教育学部)